



みんなが集う場を楽しく盛り上げる演出の一つとして、**食**べたり、飲んだりすることがとても有効。そのことで人と人がフランクに繋がります。

今年も、そんなテーマで、楽しく語り合います。ぜひ参加ください。

日時：12月4日（日） 12時～16時30分

会場：地域振興プラザ 4階

参加費：300円

申込み：12月2日（金）までに電話またはメールで下記へ（当日参加も大歓迎です）

主催：NPO 法人 市民活動サポートセンターいなぎ

《プログラム》

第1部：カフェタイム（受付けタイム） 12：00～

軽食（有料または持ち込み）を**食**べながら気軽におしゃべりを楽しみましょう。

第2部：ちゃぶ台キャラバンの報告 13：10～

「**食**べてつながる」を共通テーマに、内容や場所を変えて2～3か月ごとに開催しているワークショップ「ちゃぶ台キャラバン」の取り組みを報告します。

第3部：講演会 13：30～

「つくって**食**べる みんなのお勝手から はじめる“まちの暮らし”」

講師：竹之内祥子（さちこ）氏（okatte にしおぎオーナー）

食を中心にした、まちのパブリックコモンスペース「okatte にしおぎ」を通じて、人と人をつなげていく取り組みをお話しいたします。

第4部：トークカフェ 14：55～

講演の内容も参考にしながら、これから稲城でどんなことをしたいかを話し合います。

◎申込み・問合せ：市民活動サポートセンターいなぎ

電話：042-378-2112 メール：info@i-inagi-support.org

学校支援コンシェルジュ座談会



写真後列左から、榎本さん、小林理事、宮崎さん、伴さん、前列左から、佐藤さん、小林さん、渡邊さん

子どもの成長を地域で応援！

学校支援コンシェルジュ（以下、C）とは、学校教育の充実に必要な地域の教育資源と学校とを結びつけるためのコーディネーターのことです。稲城市内では、すでに全中学校区単位（ブロック）にCが配置されていて、それぞれ地域の実情に合わせて活発に活動を展開しておられます。

そこで、去る10月19日に、ブロックからお一人ずつ参加していただき座談会を開催しました。今回は、その内容を要約してお知らせします。なお、座談会の全文はホームページにアップする予定ですので、併せてご覧ください。

座談会出席者（敬称略）

参加者名	ブロック	ブロック内小学校
渡邊真砂子	第1中学校	第3小学校 第6小学校
榎本 勝美	第2中学校	第2小学校 平尾小学校
佐藤久美子	第3中学校	第1小学校 第7小学校 南山小学校
伴 幸起	第4中学校	第4小学校
宮崎 宏一	第5中学校	向陽台小学校 城山小学校 長峰小学校
小林モト工	第6中学校	若葉台小学校

司会：小林攻洋（市民活動サポートセンターいなぎ理事）

司会 まず自己紹介を簡単をお願いします。

渡邊 住まいは大丸で1中のすぐ目の前に住んでいます。高2の娘が中学校に通っている時に、PTA活動をしたのがCとして関わるきっかけでした。

榎本 住まいは坂浜でCは3年目です。

佐藤 Cは3年目で、次男が小中学生の時にずっとPTA活動をやっていて、その流れでやらせてもらっています。

伴 住まいは押立でCは2年目。担当は私1人です。

宮崎 住まいは長峰で、住んですぐにPTAに関わり、その流れでCに誘われました。

小林 私も佐藤さん同様、PTAをやって、民生委員でもあることからCの話が来ました。

学校と地域をつなぐコンシェルジュ

司会 それでは、各ブロックの活動の様子などを簡単に紹介していただけますか。

渡邊 このブロックは、以前から学校に関わっている方がたくさんおられるので、Cがわざわざ関わらなくても、地域の方々が独自におやりになっています。そんな中であえ

て言えば、学校のホームページを作るときに、公民館のパソコンクラブに支援を繋いだことや、外国人のお子さんが学校にいるので、副校長先生につぶやかれ、国際交流の会に繋いだことぐらいでしょうか。

榎本 2小はこの制度に関係なく、むかしから稲作などの地域行事をやっています。Cの活動としては、2中の「職業を聞く会」で、農業者、駐在さん、商店主など10名ぐらいの方に学校に来ていただきましたが、その方々を繋いでいます。

2中の芝生の管理にも協力していますが、都内でも有数のお墨付きをもらっています。また、C仲間にペンキ屋さんがいるので、親父の会と一緒に学校施設のペンキ塗り替えなども行っています。

佐藤 3中ブロックは、小学校ごとに地域性が異なります。新しくできた南山小はもちろん、7小も大規模マンションができて大規模校になりました。そんな中で、ちっちゃい学校だからできたこともできなくなってきていて、それをどう持続するかが大事だと思っています。

3中の職場体験は、去年からCが体験先の候補を選び、

従来とは違うところが増えてきました。その体験発表会では、お母さんたちから、バラエティに富んでいて面白そうと好評でした。

伴 ブロック内には地域におせっかいな方が昔からいて、その方たちと学校が直に繋がっていますから、担当が1人だから大変ということはありません。そんな中で、4小の5年生がふれあいの森に行く時に、キャンプファイアーの薪を手配してなくて困っていると相談され、親父の会と一緒に薪を調達してあげたり、4小の老人ホームを訪問する授業では、事前の車いす体験授業のために社会福祉協議会に繋いだりしています。

宮崎 最後にできたブロックなので、去年1年をかけて、そもそもCとはなんぞや？というところから始めました。その結果、まずこの制度を皆さんに知ってもらおうと、パンフレットを作り、エリア全戸に配布しました。また、配布に合わせて学校支援ボランティアの登録をお願いしたところ、約40名から支援するとの回答をいただきました。

長峰小からは、まち探検をしたいとの要請があって協力できました。また、小学生版の職場体験授業では、全部で15社にお願いできました。

小林 新しい地域なので、学校は地域にどんな方がいるかよく分からないので、学校側のこんなことをしたいという要望を聞いて、私がそれに適応すると思われる方を探して紹介しました。最初は私が講師に直接会って交渉、2年目は講師との日程調整だけをして、いまは学校がCを通さず直接お願いするようになっています。逆に私がCであることを知って、「学校でこういう話はどうかな？」と地域の方から提案されることもありました。オリンピック・パラリンピック教育の車いすマラソンの方とか…。

夏祭りで中学校の生徒会がやるビンゴ大会では、その連絡係みたいなこともやっています。

司会 簡単に言ってしまうと、地域と学校を繋ぐのがCの役割と理解しているのでしょうか？

全員 その通りだと思います。

学校を通じた地域力の向上

司会 最近、地域の教育力や地域力の低下ということが言われていますが、そのこととCの役割については、どうお考えですか？

小林 都のコーディネーター研修会に参加した時に、コーディネーターは、学校から依頼されたことだけでなく、指導要領なども把握して、地域にこんな人がいるからこんな授業をしては、と提案するぐらいになったら素晴らしい、というような話があったのですが…

宮崎 確かにそういうコーディネーターもいるようですが、どうなのでしょう？学校の事情もよく知り、それを踏まえないと提案はできない。

榎本 稲城は稲城なりの特色があっていいと思います。例

えば稲城には地域教育懇談会（以下「地教懇」）があり、Cもその一員なので、その中で考えるのがいい。稲城の地教懇は何十年も続いているので、その土台を活かしながら動かしていくのがいいと思います

小林 地教懇の会議は、年3回程度ですから、学校としてはそのメンバー全員にはなかなか声をかけにくい。でもメンバーにCがいれば繋ぐことができます。特にニュータウンのようなところは…。

渡邊 1中ブロックは昔からの繋がりで、Cのような活動ができちゃっている。だから、つぶやいてもらった時に、少しでも力になればということで、何かあったら「つぶやいて下さいね」ってお願いしています。

司会 個人的な考えでいいのですが、具体的にCはどうあったらいいと思いますか？

佐藤 以前、中学2年生の150人を対象に着物の着付け教室を行いました。その時に、校長先生が、お金をかけて和装協会に頼めば簡単にできてしまうが、稲城の方に来ていただくことに意味があるとおっしゃったので、そのお手伝いをしました。女子は大丸にお住まいの方に、男子は弁天通りの阿波踊りの会の方に頼んで行いました。

そういう繋がりの中から顔見知りになる。地域力ってそういう繋がりから生まれるのだと思うのです。

小林 そう、同じ稲城の中で誰かを探してることが地域の繋がりだと思います。

榎本 私は学校の立場にたって、学校が要望すること…逆に変に動いちゃいけないとも思っている（笑）。あうんの呼吸ですかね。

小林 Cとして割と頻りに学校に顔を出すので、先生方と気軽に雑談できるようになっています。そうした雑談の中で提案することもあります。やる、やらないは学校が決めればいいと思っています。例えば、地域美化運動があるのですが、6中の生徒も参加しませんか？といった具合に…。

伴 地教懇のメンバーに多摩川の魚協の方がいて、青少年育成地区委員会（青少育）も絡んで投網を体験させてもらったことがあります。ところがその後、アユの放流の時には、予算がないので4中さんには声をかけなかったというのです。地域内の様々な団体が絡んだ仕組みができたらいいいですね。

宮崎 災害の時に一番頼りになるのは中学生ですから、一昨年からの地域の防災訓練には必ず参加するようになってきています。

小林 6中も生徒の参加を呼びかけています。

司会 学校に地域の方を呼ぶだけでなく、子どもたちが地域の行事に参加する活動もある。それを繋ぐのもCの役割ということですね。

稲城ブランドの子どもを育てよう

司会 最後に皆さんから一言ずつお願いします。

渡邊 難しいことではなくて、自分の子どもはもう卒業したけど、地域の子どもたちを応援できる立場でずっといたいなあ〜という気持ちでいます。地域の一人として…。

榎本 2小の児童は89人ですが、この秋に自治会と一緒に運動会を行いました。その時に、坂浜の子を坂浜の住民がしっかり支援し、見守っていかうと訴えました。

佐藤 私はPTA活動を通し育ててもらいました。ですから、子どもたちのために、何かちょっとでもお手伝いできたらいいなあ〜という思いでやっていきたいです。稲城ブランドの子どもを育てたい！

伴 私は稲城育ちで、下の子が4小に入った時に、また子どもが稲城で育つので何かやりたいなあと思っている時に青少育に誘われました。そんな活動をしていると、子どもも親同士も、地域の人とも学校の先生とも知り合える。そうやって繋がるということが稲城全体としての力では…。

宮崎 稲城に来てすぐに、ある出来事があって仲間と一緒にPTAを立ち上げました。また、子どもが中学生の時に、子どもに関わることは難しいが非常に大事なことなのだ、身をもって体験したことがありました。それをきっかけに、少し身を入れてがんばろうと思ったのです。

小林 若葉台ができた時に越してきましたが、稲城は本当に良いところだと思いました。自然は豊かでそれなりに便利。とても気に入っています。その稲城の良さを知らない方も多いと思うのでもったいない。

青少育関係で地域に出て行くと、さらに地域の良さを実感します。私の地区は坂浜さんにおんぶに抱っこで、坂浜地区のいろいろな行事に参加させてもらっているのですが、行事に参加した若葉台の子どもたちが、やっぱり稲城って良かったね、と言って大人になって戻ってきてくれたらいいなあ〜って思っています。



「NPO ふれあい広場 ポーポーの木」が平尾団地商店街で運営している「喫茶ポーポーの木」が10周年を迎え、10月8日（土）に記念式典が行われました。

アコーディオン演奏が流れる中、午前10時から始まった式典は、スタッフの自己紹介に続いて、喫茶責任者である近藤弘実さんから「10周年を迎えて」感動のご挨拶がありました。

2006年10月に「喫茶ポーポーの木」がオープンした当時は、平尾団地商店街も空き店舗が多く、人通りも少なかったので、地域の人たちが気軽に立ち寄れるコミュニティの場を作りたいと願い、開店したそうです。

美味しいコーヒーや野菜たっぷりバランスのとれた日替わりランチ、手づくりデザートなど、「食べることを通して地域の方々の健康と見守りの役目も心がけてこられ、日替わりランチは多摩・日野・稲城の3市で行われているグッドバランスメニューキャンペーンで、3度金賞を受賞しています。

また2階は、生きがい活動としての趣味や体操の会に開放し、1階の壁面は作品の発表の場として、皆さん



で楽しんでいるそうです。

商店会や自治会とも協力し、イベントやお祭りなど地域の行事に参加しています。この商店街も、最近は若い経営者の店が増え、喫茶ポーポーの木も若いスタッフを中心に企画部ができ、活気が出てきました。

「今まで支えてくださり、応援して下さる皆様のお蔭です」と、近藤さんは挨拶を締めくくられました。

続いて、高橋勝浩市長から次のようなお祝いのご挨拶がありました。

「ポーポーの木の代表・平田富美子さんと初めてお会いしたのは、私がまだ障害者福祉の係長の時でした。当時はNPO法人という制度もなく、皆さん無償のボランティアだったと記憶しております。今このようにしっかりと組織に成長され、訪問介護事業のみならず、居宅介護支援事業、障害者や育児支援事業、ひとり親家庭ホームヘルプサービス事業等々、稲城市の福祉をしっかりと支えていただいております。喫茶ポーポーの木は、これから益々地域で必要とされる場所です。頑張ってください」。

セレモニーの後は、美味しい手づくりのケーキとコーヒー、スペシャルランチをいただき、会場はごひいきのお客様でいっぱいになり、14時半からの「うたカフェ」でお開きとなりました。

